

カナメ PV売上1.5倍30億円

住宅屋根一体モジュール販売強化



屋根一体型モジュールの設置事例



吉原正博代表取締役社長 産業向け新製品



金属屋根メーカーのカナメ（栃木県宇都宮市、吉原正博社長）は2014年12月期の太陽光事業の売上高が前年比約1.5倍の約30億円だった。太陽光取付金

具の販売やEPC事業の拡大に加え、住宅向け屋根一体型モジュールの出荷増が寄与した。住宅屋根一体型モジュールの14年の出荷件数は374件と前年より60%以上増えた。容量ベースではほぼ倍増の約4MWだった。件数以上に出荷容量を伸ばしたのは、1棟当たりの搭載容量が増えたため。背景には住宅向け10kW超太陽光の需要拡大がある。上期はハウスメーカーの積極的な営業活動もあって10kW超太陽光の需要が増加、同社も提案を強化した。しかし一部電力会社の接続保留を

機に需要は減少、同社も西日本では10kW未満の提案に切り替えざるを得なかった。吉原正博代表取締役社長は、「住宅用太陽光はZEH（ゼロエネルギーハウス）向けの一部材として今後も導入は進むはず。設置容量は減るかもしれないが、昨年を上回る件数を目指し、販売を強化していく」と語る。14年の太陽光取付金具の売上は前年比約15%増だった。吉原社長は、「36円案件が9割以上だった。14年は件数こそ増えたが、一案件あたりの規模が小さくなる傾向があった」と振り返る。また、同社は昨年11月に金具の新製品を発売。従来は個別製品に

て対応していた角ハゼ・丸ハゼも同製品にて対応可能と

した。加えて主要パーツを削減し低コスト化を図った。素材には同社製品の特長であるアルミめっきステンレス

を採用している。今年の太陽光事業について吉原社長は、「15年は制度改正もあって、先行きが不透明

だ。産業用は厳しくなると思うが、住宅向けの一体型でカバーし、前期並の売上30億円を目指す」と語った。

新世紀PV会 新エネ専門委員会開催



エスイーエム・ダイキン（大阪市北区、小川卓二社長）の全国代理店組織である新世紀PV会（安田武司会長）は1月16日、名古屋市中区のメルパルク名古屋にて「新世紀PV会（新エネ）専門委員会」を開催した。会の冒頭、新世紀PV会会長を務めるアイデンの安田武司社長は、「ブームとなった太陽光業界は、参入企業も

増え、価格競争も激しくなっている。今後はこのブームに踊らされずに信念を持った本物の会社が生き残っていくことになるはず。会員各社さんはいわばプロ集団。こういった場を活用し、さらに良い案を生み出していければ。苦しい1年かもしれないが、一緒に乗り切っていきましょう」と挨拶した。一方、エスイーエム・ダイキンの小川卓二社長は、「FITが始まり2年半が経ち、その間会員各社さんは大きく躍進されたことと思う。だが、その波もいま収まろうとしている。昨年この場で申し上げたが、山高け

れば谷深し」。本当に大きな試練が待ち受けていると思う。新世紀PV会も今年節目の20周年。太陽光市場も20年前には想像もできなかった規模に拡大した。今後も様々な課題、試練を協力して乗り越えていきましょう」と述べた。新エネ専門委員会では、資源総合システムの一木修社長が「太陽光発電ビジネスの現状と展望」と題した講演を行ったほか、ソーラーシェアリング協会の大村淳代表理事が「次世代農業とソーラーシェアリング」について解説。その他、山洋電気による「グリッド管理装置」の紹介やエスイーエム・ダイキンの黒澤理人技術統括部長による業界動向の説明も行われた。

新栄電子計測器

従来品も、継続して売

サンヨーホームズ

は、全て日立ブランド